

澤村誠志（編著）

地域リハビリテーションと私

大庭 潤 平
（神戸学院大学，作業療法士）



わが国は，世界に類をみない少子高齢社会や人口急減を迎え，教育，貧困，地域格差等，さまざまな課題を抱えている．そのため国や自治体は，社会保障制度の変革をはじめ，教育支援や子育て支援，地域づくり等のさまざまな対策を講じている．その一つに地域包括ケアシステムや地域リハビリテーションシステムの構想がある．

これまで，わが国の地域リハビリテーションの礎は，どのように築かれてきたのか．そして，これからの地域リハビリテーションは，どのように発展すべきなのか．その指南がこの本には書かれている．そして書名の『地域リハビリテーションと私』の「私」とは，地域リハビリテーションシステム構想の生みの親にして第一人者の「澤村誠志先生」である．澤村誠志先生は，日本ではじめて総合リハビリテーションセンター構想を唱え，事実，兵庫県立総合リハビリテーションセンターの初代センター長（現：兵庫県立中央リハビリテーション病院名誉院長）として，今もなお，わが国を真の福祉国家にすべく精力的にご活躍されている医師である．

私は，OT として初めて勤めた場所が，澤村誠志先生がセンター長をしておられた兵庫県立総合リ

ハビリテーションセンターである．新人の OT からすれば雲の上の存在である澤村先生には，話すことも会うことすらもできないと思っていたが，実際は違った．澤村先生は，多忙な合間を縫ってよく作業療法室に來られ，患者さんに笑顔で声をかけられ，われわれスタッフにも声をかけてくださった．澤村先生がよくおっしゃっていた言葉は，「患者さんから学べ」である．患者さんが最良の教科書であるという澤村先生の理念は，今でも私のリハマインドの根幹である．

そんな澤村先生が書かれた本書『地域リハビリテーションと私』は，地域リハビリテーションを学ぶことのみならず，リハビリテーションにかかわるすべての人が真のリハビリテーションとは何かを学ぶことのできる一冊である．

第1～3章は，「障害のある人々，患者さんが私の先生，地域での生活が教科書」，「我が国の義肢装具に関する基盤整備にとりかかる」，「『地域リハビリテーション』をライフワークとして選ぶ」として，“リハマインドとは何か”，“「切斷者が我が師，地域生活が教科書」の意味”，“医療や福祉の領域で働くこと若者へのメッセージ”，そして“夢と目標をもつ人生の大切

さ”，“人との信頼関係が道を開く”，“国際的な人間とは”等，リハビリテーションについてのみならず人生指南書といっても過言ではない充実した内容になっている．第4～5章では，「地域包括ケアを支える地域リハビリテーションシステムの構想」，「地域リハビリテーションを支えた人々と私」として，経験に裏打ちされた具体的な課題と展望を提示され，地域リハビリテーションの功労者でありキーマンである著名な先生方と澤村先生との対談や地域リハビリテーションを知るための貴重な話も書かれており，“事業は人なり”を強く感じる内容となっている．第6～7章では，「若い世代への期待」，「最後に，妻への感謝」として，澤村先生の温かい人柄と熱い想いが書かれた必読の内容となっている．

私はリハビリテーションにかかわる一人の OT として，この本に出会えたことを幸せに思う．すべての OT の皆さまに本当にお薦めする一冊である．

〔 四六判 352 頁 3,200 円＋税 〕
シービーアール 刊
☎ 03-5840-7561